

第2回北しりべし定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録

日 時 平成22年10月29日(金)午後3時～午後4時10分
場 所 小樽市役所別館3階 第二委員会室
出席委員 澤田会長、斎田副会長、阿久津委員、並木委員、長川委員、伊澤委員、三浦委員、赤間委員、岡田委員、井上委員、小笠原委員、播磨委員、杉本委員、佐々木委員、二川委員、若松委員 (欠席 山田委員、清水委員)
オブザーバー 小樽開発建設部、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村
事務局 迫企画政策室長、上石主幹、澤里主査

1. 開 会 (午後3時)

(司会) 第2回北しりべし定住自立圏共生ビジョン懇談会並びに提言書の手交式を開催させていただきます。私は事務局の企画政策室の迫と申します。本日はお忙しいところお集まりをいただきありがとうございます。7月5日に第一回目の懇談会を開催いたしまして、この間、ワーキンググループ(WG)を通じご審議をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

お手元の式次第をまずご覧いただきまして、私の方から、本日の進め方について説明させていただきます。このあと、二番目にあります懇談会を開催させていただきます。そのあと、提言書の手交式ということになっております。ここで市長が同席させていただくことになっております。二番目の懇談会まで澤田会長の進行で進めていただいて、三番目以降は事務局の私どもの方で進行させていただくということでご了解いただきたいと思います。それでは澤田会長、よろしくお願ひします。

2. 第二回北しりべし定住自立圏共生ビジョン懇談会

(会長) 本日はご多忙のところお集まりいただきまして大変ありがとうございます。懇談会長を仰せつかってまいりました小樽商科大学の澤田芳郎です。ただいまのご紹介にもありましたように、第一回目の懇談会は7月5日の大変暑い日でありました。市民会館に集まって第一回を開催させていただきました。その場でWGを3つ作ることが決まり、それぞれ一つあるいは二つのWGにお入りいただいて、大変熱心な議論を続けることができたと思います。ご案内のように、現時点で北しりべし定住自立圏共生ビジョンに関する提言がまとまっており、みなさまのお手元にも届き、個人としてご了解いただいて本日に至っていると思います。ここでもう一度、会の総意としての成立を図っていくこととなりますが、その前に、各部会長から各部会の議論の報告をお願いしたいと思います。第一回の会議で、私たちはこの北後志地域の将来に少なからず責任を持った立場に立つことを認識して議論しようと思しました。私たち、限られた時間ではありましたが、最善の努力をした。不十分な点はあるかもしれませんが、これは将来のこの地域としての総意のきっかけになればいいのではないかと思います。その基礎となる議論は、私たちは十分やったのではないかと確認させていただきたいと思ひます。

まず最初に、産業振興・観光・地産地消WGの小笠原部会長、よろしくお願ひいたします。

(委員) 産業振興・観光・地産地消WGの部会長を務めさせていただきました小笠原と申します。

よろしくお願ひします。このWGは1回目を7月21日水曜日の3時から、2回目を8月16日火曜日の13時30分から、3回目を9月2日木曜日の15時30分から開始しました。1回目は自由な討論の場といたしまして、2回目は、1回目の議論をさらに深める場といたしました。3回目につきましては、1回目と2回目の議論を私どもと事務局とでペーパーにまとめまして、それをさらに議論を深めたり、あるいはブラッシュアップをするという場になりました。最終的にその段階でまとめに入ったものです。1回目と2回目の議論につきまして、おもなものを報告いたします。産業振興に関しましては、具体的な取り組みとして、北しりべし異業種交流の促進、産業振興に関わる地域資源の交流、異業種連携による商品開発の促進、圏域が一体となつての販路の開拓、ネット販売での販路拡大、地域の特徴である小樽港を活用した新たな流通の確立、広域ブランド化への取り組み等の意見が出されました。次に、地産地消の取り組みに関する具体的なものとしましては、食の情報の共有、食の情報の発信、食の活用等の意見が出ました。また、広域観光に関しましての具体的な取り組みとしましては、観光資源の洗い出しと新たな観光ルートの創出、圏域外に対する圏域一体となった情報発信、農業水産業との連携、小樽を基点とした観光ルートと情報発信の拠点の創出、観光案内人の充実とネットワーク化、東アジアを中心とした観光客の誘致等の意見をいただきました。この議論を起草WGでの次の議論の土台とし、最終提言書の作成に入りまして、できあがりしましたのが本日の提言書であります。以上、簡単ですが、産業振興・観光・地産地消WGの報告といたします。このWGに関しまして、貴重な時間を皆様方、大変スムーズな議論にご協力いただきましたことにお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(会長) ありがとうございます。次に斎田部会長、よろしくお願ひします。

(委員) 人材・教育・情報・交流WGの部会長を担当させていただきました斎田です。私どものWGは、澤田会長を含めまして、井上委員、小笠原委員、杉本委員、そして私の5名と事務局を加えまして、3回のWGを開かせていただきました。第一回目が7月22日、第二回目が8月18日、第三回目が9月7日ということで、3回にわたって皆さんの活発なご意見をいただきました。進め方については、私どものこの4つの切り口の中で、まずフリーにそれぞれ語っていただいて意見交流をしながら意見をいただき、最終的には人材・教育という意味で人材育成という部門のくくりと、それから交流・情報ということで地域交流というくくりでまとめさせていただいて、起草のWGの方に諮らせていただきました。簡単に集約したものを述べさせていただきますと、人材育成につきましては、小樽にある3つの高等教育機関、すなわち小樽商大、北海道薬科大学、職業能力開発大学校、特に小樽商大につきまして、これを人材育成の中で積極的に活用すべきだと、この圏域内の人材教育の中に活用すべきだという意見が多く出されました。また、北後志圏内の若者たち、若い世代が、地域振興に意識を持って参加できるような場の創出も必要であろうということが出ました。3つ目には、この圏域内での農業の継承が課題となっている。農業者自身による若い人たちへの教育システムの形成、そういった機関が必要ではないかという意見も出ました。4つ目には、圏域内での人口減に歯止めをかけていかなければならない。そのためにも、圏外からの移住促進を積極的に図っていかなければならない。そのためのプログラムの開発を圏域全体の中で図っていくべきだという意見が出されました。後段の地域交流にあたっては、産業振興や広域観光の確立のためにも、北後志圏内の人材交流がぜひ必要だという意見が多く出されました。人材交流を進めることによって、人的なネットワークが構築されて、各分野に新たな発想や刺激をもたらすであろう。ぜひともこういった人材交流をこれから進めていくべきだというご意見を多く頂戴しました。2番目には、産業振興や地域活性化を図るためには、1番の人材育成にもありましたように、産学官等との連携による取り組みをぜひ進めていくべきだと意見を頂戴

しました。3 番目に、そういった地域交流や人材交流の拠点として、道の駅あるいはアンテナショップといったものを設置してはどうかという意見も頂戴しました。総体的なところでまとめさせていただきますと、北後志圏内の人材交流の手段として、この提案書に仮称として載っていませんけれども「北しりべし住民会議」といったものを創設してはどうかというご意見が集約されました。また一方で、圏域内の住民の意見、方向性を実現するためには、NPO 法人等の設立も考えていってはどうか。こういったところが、私どもの WG の大きなくくりとなったと思います。以上、報告とさせていただきます。よろしく申し上げます。

(会長) ありがとうございます。それでは 3 番目に長川部会長、よろしく申し上げます。

(委員) 私の方からは、医療・福祉・地域公共交通 WG ということで、概略をお話したいと思います。資料の提言書案の 8 ページから 10 ページにまとめられておりますけれども、WG 会議は 8 月に二回行いました。その後、9 月に入りましてからは、メールを使いながら意見交換等をさせていただきました。WG 会議の中では、特に前段は、医療に関する意見交換が活発だったという印象があります。管内市町村の医療の実態把握、医療連携など基本的な部分で現状認識が、私を含めて部会のメンバー間で共有できないと言いますか、認識が違うといったことも実際にありました。そういうこともありまして、このビジョンの中では、具体的に掘り下げて議論するには限界があるというような感じも持っております。結果的には、8 ページにまとめられておりますように、夜間救急体制、小児救急・周産期医療、診察情報の共有による連携という 3 つの提言にまとめたところですが、特に医療については、ほかの委員の皆様から補足があれば、お願いしたいと思います。福祉につきましては、北後志 6 市町村のご支援、ご指導をいただきまして、この 4 月から実際に取り組みを始めた成年後見センターがございます。これからも確実に利用が増えていくという前提の中、今後も 6 市町村の財政支援等のご指導を受けて続けていかなければならないということ。それから、管内 6 市町村の連携事業として一緒にやっというということではないかもしれませんが、管内いずれも高齢化が進んでおりますので、独居高齢者を地域で見守る、または何らかの支援活動が必要だと、そういうことがこれから大切だという共通認識を持って取り組みましょうということで記載されております。公共交通につきましては、9 ページの下段に書いているとおりですけれども、2002 年から規制緩和が進み、現在あらたな法律も検討されているということで、これらの動きを見ていくことがまず必要だということでございます。一方では、公共交通を担う事業者も、公共性を認識して利用者ニーズに応じていくという考えをもちろん持っていていただいておりますけれども、管内の人口減少、それによる利用者の減少ということもございまして、経営への影響もあるということで、ジレンマがあるということもお聞きしました。今後は行政サイドとの一層の連携が必要だと、部分的には利用者負担も含めて、公共交通について議論する必要があるというまとめをしております。もう一つは、市町村が何らかの関与をした形でデマンドバス、あるいはコミュニティバスということも検討が必要ではないかという内容でまとめられております。部会ではいろいろな意見が出されましたけれども、全体的にはほかの部会もそうかもしれませんが、澤田先生には調整していただきまして、まとめていただいたと思っております。ありがとうございます。

(会長) どうもありがとうございました。最後に、提言起草 WG について、短くご紹介しておきたいと思います。今回のこの提言がどのようにしてできたかということなんですけれども、おおむね 9 月の末ころに各部会の議論が収束をいたしました。この 3 つの部会には、それぞれご存知のように市役所企画政策室の方が熱心においでになりまして、事実上、録音の書き起こしに等しい議事録を作成していただきました。その後、市役所の方々が各部会のまとめという形で 3 つの文

書を作成してくださいました。私たちの議論を市役所の方々が大変よく聞いてくださって、要領よくまとめていただいたのではないかと思います。ただ、文体調整の必要等があり、また、ご存知のように部会の間でオーバーラップしている部分がありましたので、これを整理しつつ、なおかつビジョンとして明確になるようにという方向で、私の方で原案を起草させていただいた。これを起草WGの方々にご覧いただき、一応完成した段階で全員の方にご覧いただいて直していったという次第であります。10月の初めごろに見ていただいたものは校正がまだ若干ごたごたしてしまっていて誤字脱字も結構あったんですけども、これが、ようやく皆様のご指摘、ご意見をふまえてまとめていくことができたということで、たいへん良かったと思っております。が、今日お配りした中に若干ミスがありましたので、ご紹介させていただきます。2ページの「2. 圏域としての課題」という小見出しがありますが、この小見出しは本来であれば太字ゴシックであるべきところ、そうになっていなかったもので、先ほど気がついて急遽ただいま修正していただいている次第です。もう1箇所、これは今から25分ほど前なんですけれども、最後のページの懇談会のオブザーバーの下に、事務局の方々の名前が入っているべきではないかということに気がつきました。「事務局」として左側に小樽市、右側に3人の方のお名前が並び、その肩書きが右側に来るという新しい箱が一つ付いたものが、ただいま印刷中であります。そして表紙です。表紙の「(案)」というのがありますが、これを削除したものを、もしご了承をいただけるのであれば、ただいまをもってこれを削除して成立をさせたいと思うんですけども、いかがでございましょうか。（「異議なし」の声。） それではどうもご苦労様でした。これをもって提言が成立をしたということにさせていただきます。

3. 提言書の手交式

(会長) 7月5日に委嘱をされました私ども「北しりべし定住自立圏共生ビジョン懇談会」で、鋭意議論を進めまして、本日ただいま「北しりべし定住自立圏共生ビジョンに関する提言」をまとめることができました。謹んで市長殿に手交させていただきたいと存じます。どうぞよろしくご覧ください。

手交

(市長) ありがとうございます。

(会長) それでは、本提言書の全体について、その成り立ちを含めてわずかにご説明をさせていただきますので、このあとお目通しいただく際の参考になれば幸いです。

私どもは7月5日に懇談会委員としての委嘱を頂戴いたしました。その後の経緯なんですけれども、この提言書の2ページの左上に、4行目から書いてあります。数行、読み上げさせていただきます。「2010年7月5日には小樽市長が委嘱した18名の民間・地域関係者、圏域住民による「北しりべし定住自立圏共生ビジョン懇談会」が設置され、そのもとに「産業振興・観光・地産地消WG」「人材・教育・情報・交流WG」「医療・福祉・地域公共交通WG」の3部会が設けられた。3部会は計8回の会合を通して議論を深め、さらに各部会長、副部会長及び懇談会長で構成された「提言起草WG」が3回の会合とメール協議を通して提言案を起草し、懇談会会員全員へのフィードバックを経て、10月29日の第二回懇談会で本提言が小樽市長に提出されるに至った。」こういう経緯であります。3つのWGはある程度領域がオーバーラップして部分がありました。また、それも前提に、WGのメンバーも少しずつオーバーラップをさせるというかたちで、延べ人数にすると相当な人数の方々にお運びいただいたこととなります。各部会の報告にあたる

ものは、市役所企画政策室でおまとめになりまして、それを起草 WG で頂戴して、若干の整理を施しながら文体の調整等をしていって、今回このかたちにまとまったということであります。この提言書は、この部会に集まられた方々、事実上この北後志圏域のオピニオンリーダー層の方々と行ってよろしいと思いますが、この方々がこの部会の場で盛んに様々なアイデアを述べられました。このアイデアの背後の考え方を整理し、可能な限り体系づけて、やる気になればすぐ実行できるようなアイデア集たることを目指して作り上げたものをご理解いただければ幸いです。領域としては7つに分かれまして、産業振興、広域観光、人材育成、地域交流、医療、福祉、公共交通、この7つに関して全部で22の項目が挙げられておりますが、さらに、このWGでの議論を通して2つの重点課題が抽出されてまいりました。その詳細につきましては、11ページの第3章にまとめられている23番と24番であります。さきほどの22件にこの二つを加えて、合計24件のご提案というものができているのではないかと思います。「北しりべし住民会議（仮称）の設置」、「住民による議論が示す方向性を実現に移すNPO法人等の創設、維持」。このような方向性が出てまいりましたことを部会の皆さんと共に確認し、ご報告申し上げたいと思います。なお、こういう住民会議という名前を使っておりますけれども、これは地方自治体の制度を否定するものではありません。市町村議会の決定に基づく予算の裏づけをもって行政が機能する地方自治体の制度を否定するものではありませんが、一方で、北後志という圏域名を名乗る以上、北後志としての議論をする場を何らかのかたちで設けていくべきではないかということと、単に議論するだけではなくて、議論の結果、いわゆる方向性を少しでも実現に移すためのあらたな社会機関が何らか存在するべきではないか。ただし、これらの住民会議にしてもNPO法人にしても、法的財政的位置づけを十分に議論をするまでには至りませんでしたので、このあたりについては圏域住民による今後の議論に期待をさせていただきたいと考えている次第です。私ども懇談会員といたしましても、日頃そこはかとなく考えていることを、ある程度、議論を通して形を与えながら地域の人々にご提案する機会を得ることができたことは、大変ありがたいこととございました。私たちも努力いたしましたけれども、小樽市を初め6市町村の方々がこれらが採用に値するものと思われれば、各住民の方々ともご相談のうえで実行に移していただきたく、また、その過程で私たちも必要に応じて議論あるいは実行に参画していきたいと考えている次第でございます。以上、内容のご紹介を兼ねまして発言させていただきました。

4. 市長あいさつ

(市長) ただいま澤田会長さんから提言書をいただきました。お話ありましたように、7月に開催いたしました北しりべし定住自立圏共生ビジョン懇談会以降、委員の皆さんには大変お忙しい中を、3つの分野におけるWGにおきまして、それぞれのお立場で熱心な議論を重ねられまして、こうして提言書としてまとめていただきましたことに、厚くお礼を申し上げたいと思います。また、澤田会長様には提言書のとりまとめに大変ご苦労いただいたと伺っておりまして、心から感謝を申し上げます。定住自立圏構想の取り組みでございますけれども、いわゆる人口減少、あるいはまた少子高齢化という中で、今後、単独の市町村だけでフルセットの行政サービスを提供することが大変難しくなっていくということが想定されるわけでございまして、これを受けまして、中心市と周辺の町村お互いの役割分担のもとで、連携、交流の推進によりまして、地域の活性化を図るものでありまして、そのためには圏域全体で都市機能と地域資源の活用をしながら一体的な発展と利便性の向上を図って、地域住民が安心して暮らせる地域づくりを進めるものであります。本日、皆様方からいただきました提言内容を真摯に受け止めまして、今後5町村との協議を経まして共生ビジョンに反映をしていきたいというふうに考えております。また今後につきましても、北後志定住自立圏の取り組みにあたりまして、委員の皆様方のご支援ご協力

を賜りますようお願い申し上げます、ひと言お礼のご挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

5. 共生ビジョン策定の今後のスケジュールについて

(事務局) ただいま提言書を私どもいただきましたが、今後、総務省に対しまして、定住自立圏の共生ビジョンというものを策定していかなければならないことになっております。お手元に資料は用意してございませんけれども、私の方から、これからのスケジュールについてご説明をさせていただきたいと思っております。総務省に対しましては、11月中に共生ビジョンを策定し提出しなければならないことになっておりますので、1ヶ月掛けまして小樽市役所内で、あるいは関係する5町村の担当課長さんの間で議論をさせていただきながら、ベースになりますのは7月の第一回目の懇談会でお示しをしましたビジョンの素案というのがございますけれども、これをたたき台にいたしまして、本日いただきました提言書の内容をどういったかたちで反映するのかということを一定程度議論させていただきまして、ビジョンの取りまとめの作業に来週から入っていきなると考えております。こういった市役所内部の会議あるいは関係5町村との会議を経まして、6市町村長による会議を経ましてビジョンを策定し決定していきたい。先ほど申し上げましたとおり、11月中に総務省の方にビジョンを提出することになっております。また、議会との関係ですけれども、特に法的にはございませんけれども、12月には市議会の第4回定例会というのがございますので、その中で、ビジョンの内容を、これまでの経過も含めてご報告させていただきたいと考えているところでございます。以上です。

それでは、せっかくの機会ですので、残りの時間を使いまして、これまでの経過、提言書の内容、今後のことも含めまして委員の皆さんと意見交換をさせていただきたいと思っております。遠慮なくご発言いただければと思います。先ほど申し上げましたとおり、私の方からあえてご指名はいたしませんので、ご意見のある方はご発言いただければと思います。よろしく願いいたします。

6. 意見交換

(委員) 私、医療の方のWGに入りましたけれども、実際問題、かたちの整ったものが動いているように見えますけれども、夜間急病センターあるいは小児救急、周産期医療は薄氷を踏むような状態で、実を言いますとソフトがいつ壊れてもおかしくないような状況にあるわけです。小樽市が既にそういうような状況ですけれども、さらに、5町村においては本当に厳しい状況が現実問題として目の前に迫っているわけです。そういった中で、中心市としての小樽市の役割は非常に大きいのではないかと考えておりますので、経済的な側面も含めまして、よろしく願いしたいと思っております。

(委員) 問題はやはり、特に医療は実情が住民に把握されていないんですね。小樽市は分かるんですが、小樽市と余市はどういう関係になっているのか、そういうのが分かりませんので、やはり5町村が一つに集まって、本当のデータが欲しいんです。本当の数字が欲しいんです。そういう話し合いをしませんと正しい医療の状況を把握できないと思っておりますし、その中でどういう連携を取っていくか、どういうインターネットを使ったら良いかが出てきますので、ぜひそういう面での取り組みをしてから、特に医療の問題は入っていかなければならないというふうに思っています。

(会長) ちなみに、この北後志圏域 6 市町村に勤務をしている医師資格をお持ちになっている方って何人ぐらいいらっしゃるんですか。

(委員) 小樽医師会全体の会員数はだいたい、勤務医を含めまして約 300。開業医が 90、残り勤務医です。意外に勤務医はいらっしゃるんです。ところが 5 町村になりますと、20~30 人しかいらっしゃらない。本当に、1 診療所 1 人の勤務医の先生が働いていらっしゃるような状況でございます。

(会長) 約 400 人で 13 万人ですから、320 人に一人くらい医師がおられることになるわけですね。これが多いか少ないか、その他いろいろな問題があるわけですが。これは医療 WG でも盛んに意見が出たところですけども、危機的状況にあるのであれば、そのことを住民の方々に訴えていただいて、どうすればいいのか、あるいは協力を求めるという手続きもしていただけると良いなと、こんなことを私、当時発言した覚えがございます。ただし、その前提として、そもその実情がどうなっているかということ把握しなければならないと並木先生がおっしゃって、まことにそうだなあとと思ったんですが、そうすると、医師でない人間になかなか把握できない世界になってしまいますので、これは行政当局と各市町村の医師会の先生方でよく協議をしていただいて、何とぞ住民の健康管理にご尽力いただけるようお願いしたいと思っている次第でございます。

(委員) 私、公共交通という部分で意見を述べさせていただきましたけれども、もう変えられないんですが、実を言うと環境についての議論をもう少しすればよかったかなと思っています。国の政策としても、将来の環境問題について盛んに取り組んでいるという中で、できれば公共交通の利用促進の部分をぜひ環境という観点からも共生ビジョンの中に入れていただくと、非常にアピール度が高くなるのかなということで、今、自分で後悔していますけれども、市長にぜひそのへんのところもお汲み取りいただきたいなと思っております。また、行政との関わりの部分で公共交通のお話もさせていただきましたので、今後、私どももいろいろな経験をふまえてアドバイスもさせていただきたいと思っています。そのへんのところで行政とのつながりをこれからも持っていただきたいとお願いを申し上げまして、私の意見というか、お願いと合わせてさせていただきます。

(会長) 私も一つ発言させていただきます。第一章、3 ページになっていますが、これは「定住自立圏構想」はこういうものですよということを、とにかく初めて見る人にもわかっていただけるよということを書いてたんですけども、後半が、どちらかというとフィロソフィーの書き込みでいったという部分になっています。これはもちろん私一人の考えではなくて、皆さんと共有している考えだと思うんですけども、そういう意味で、ここに書いてあることを一部強調してご紹介させていただきます。2 ページの 2. の第二パラグラフなんですけど、定住自立圏構想というのは「圏域全体で必要な生活機能を確保」する、そのためにああする、こうするというをみんな考えてくださいというのが非常に重要なことなんですけど、「グローバル経済の進展の中、はなはだしい少子高齢化社会に向かうわが国において、かつてのような経済成長は期待できない。」ということ前提にして、どう考えるかということ訴えているという部分があります。実はこの定住自立圏構想の中に、あまりはっきりと書いてないんですけど、「人口減少が地域社会の崩壊に至る予兆」があちこちで存在していることをふまえて、「場合によってはスクラップアンドビルドをふまえた地域再構築が必要となる。」ということを含んでいるのではないかという指摘を、私も言いましたけれども他の方からも受けました。こういう、やや厳しい認識というのを出発点として持っておかなければならないのではないかというのが、フィロソフィカルな意味での私た

ちの出発点になったのではないかと思います。それに続く結論の中のさらに重要な部分なんですけれども、3 ページの下から二つ目のパラグラフでして、「前述のように」と書いていますけれども、「人口ならびに産業活動の水準低下」というのが「北しりべし圏域における生活機能確保上の問題をもたらしている」。だから、「産業振興を目指すことは」大変必要なんです。「単に少子高齢化を恐れるのではなくて」、「それによる市場拡大」ということが起こるはずでありまして、それはそれで狙っていくべきです。この圏域の内需拡大ということもあってしかるべきですし、外部から来ていただく方に対するサービスというビジネスもあれば、ものを圏域外に持ち出すというビジネスもあるわけなんですけれども、一方で、もうこれ以上、経済規模が大きくなならない、人口も基本的には少しずつ減っていくだろう、そのことを前提にして、減りゆく社会資源について少しでも効率的な運用方法を考えていかなければならないのではないかと。産業振興は必要だけでも、それがうまくいかないということもあるし、うまくいったとしても、やっぱりそんなにもすごくうまくいくわけがないので、しっかり、とにかくみんなで力を合わせて地域社会を維持しましょうというメッセージを含んでいるというふうに私は解釈をしております。これは、今回の提言書に対する私自身の解釈に過ぎませんで、他の人は実は違うことをお考えになっていらっしゃるかもしれません。それはこのあともご意見が出てくるかもしれませんが、私の意見としては、これは会長だから言うのではない、単なる一人の委員としての意見として申し述べさせていただきますと思った次第です。

(市長) 今後、共生ビジョンを作るわけだけでも、その策定に関わっては、懇談会の皆さんとの意見交換というのではないのか。

(事務局) 基本的には要綱がありまして、ビジョンの策定にあたってまずご審議をいただいて私どもの方に提言をいただくことと、今後、ビジョンを策定していくうえで、ビジョンを変えていかなければならないという場面が出てくるかと思えます。そういったときに、またあらためてご意見をいただこうかと考えております。これから策定していくビジョンについては、委員の皆さんにお送りしてまずご覧いただくというふうに考えております。

(市長) 委員の任期は 2 年あるので、2 年間の中でいろいろな提言をもらうということもあると思う。

(委員) 人を誘致するというようなことをさきほど先生がお話していましたが、そういう話し合いというのは部会でやられたんですか。

(会長) もちろん、その方向性もありました。6 ページの一番下⑩ですね。「圏域への移住促進」をかぶせるより上段の議論として、「3. 人材育成」というタイトルの下の 5 行がありまして、この 5 行の中に「地域経済の活性化に向け、国内外からの圏域への移住も促進する」。これは従来の小樽市の政策と齟齬のないステイトメントだと思うんですけども、あらためてここで強調されているとご理解いただければと思っています。

(委員) 私、今回、産業振興・広域観光という WG でやらせていただいたんですが、この中でいろんな提言について、すべての項目についてオーバーラップされているということは当然事実です。私は今回、現場でやっているという立場で、各地域の皆さんのご見識を聞かせていただいて、なるほどなど、個人的にも非常に勉強させていただいたと思っています。実は、昨日まで 10 日間ほど本州の方で北海道物産展を中心にやっている百貨店を回って見たんですが、北海道物産展とい

うと一番売れる物産展というのが全国ベースであるんですが、今年は前年並みにいっているところがほとんどないという状況で、現実に九掛けが普通、ひどいところは八掛け、七掛けというところが出てきています。これは天候、花畑効果などいろんな要素があるんですが、ただそういう現状を見て、百貨店さん自体もそうですし、全国ベースで経済の状況というのが非常に悪くなってきている。現場レベルで販路拡大をやっているときに、今回、北後志圏域全体の中で何をやらなくちゃいけないか、このとおりにやっていくために、この第3章で「重点課題～提言の実現を目指して～」というところを取り入れていただいたということ。これは私、個人的に非常に大きな意味を持っているんじゃないかと思っています。このへんのところを、即実行のかたちでこれを進めていくというふうにもっていきけるかどうか。これが、予算の裏づけ又は住民会議等を含めて、課題の抽出はある程度できていると思います。それをどうやって、具体的に何をするのというところが、この提言の中で入れさせていただいたということは、非常に私、良かったなあと思っているわけです。現実問題として、現場にいればいるほど、そのへんのところが伝わってきていまして、何とかうまく生かせればと、ぜひこの懇談会の機能を継続して、実現できるかたちにもっていければと思っています。

(委員) 今の言葉に触発されてお話ししますが、産業振興に関わって議論させていただきました。広域観光と物産振興と言いますか、食品開発からブランド化そして観光への結びつけ、販路拡大等についてお話をさせていただいたんですけれども、これからビジョンをまとめて、実際の事業として6市町村で始まりますよね。そのときに、ビジョンというのはやや網羅的で、課題を一通り挙げておくという作業は必要だと思いますが、実際に走るときは予算も人もたぶん限られていると思いますし、お手伝いできる我々もすべてに関わることはきっとできないと思っています。何を言いたいかと言いますと、絞っていただきたい。重点課題に重点投資することがたぶん本当の効果を生み出すことになるかなと思ひまして、ちょっと発言させていただきました。

(委員) 古平町で静かに暮らしているとほとんどお会いできないすばらしい方たちと、この機会にお会いしていろいろな意見を交換したこと、非常にすばらしい体験だったと思っています。7月の第1回目の時には、古平から家業を休んで来るんだから、アリバイ作りの会議だけでなく、少しでも実現できるようにという発言をしました。この間、回を重ねていくうちに、ほかの委員もおっしゃったとおり、澤田先生のおかげで、最後の北しりべし住民会議、NPOの設立、そういう方に結びつけていける可能性が出てきたのは、非常に、一生懸命やってよかったなあという気がいたします。もしそうなってきたら、いろんな力を出して参加していきたいと思っています。

(会長) 今、北しりべし住民会議やNPOに感想が集中していますが、これがこのあとどう動くのかというシナリオを、私たちは特に持たずに書いている部分があります。各メディアのご判断次第ですけれども、明日の新聞記事にこのことが紹介されて、その中に、北しりべし住民会議創設とかNPO法人がどうかと書かれたときに、直ちに關心を持つという方がおられるかもしれません。おそらくその方たちは、小樽市役所あるいは地元の町村役場に接触される可能性がかなりありますので、参加していただくのいいかどうかは別の議論になりますけれども、そういう方との接触を絶やさずに、うまく将来に繋げていただけるよう、各行政にはお願いをしたいと考える次第です。あるいは逆に、この懇談会の中でイニシアチブを取って、自分はどうやるんだという方がひょっとしたらおられてもいいかもしれません。もしかすると考え方の違う複数のアクティビティが出てくるかもしれませんが、そのときは大人の見識でじっくり話し合っていて、この地域のために最も良い方法をみなさんで考えていただければなあと希望しております。どなたが手を挙げられるのかどうなのか何の検討もつけずに話しておりますが、ぜひご協力をいただ

ければなあと、私も協力させていただかなければなあと思っております。よろしくどうぞお願いいたします。

(市長) この北しりべし住民会議は、定住自立圏の設ける「諮問委員会」となっているんですけれども、何か諮問を受けて住民会議が議論するという意味なんですか。

(会長) 「諮問」という言葉を使ってしまいましたね。諮問なしに答申するということがあってもいいという意味の「諮問」ということで、そういう意味で書いたものではありません。ただし、あえて言えば、北しりべし定住自立圏なる圏域、これが特別地方公共団体たりうるかどうか私は知りませんが、その圏域の意思として、その中のひとつの専門機能を果たす存在としての委員会という位置づけにしておかないと、何のために何を議論するのかという出発点ができないのではないかという意味が含まれていたのではないかと思います。ただ逆に言えばそれだけ、そういう意味だけです。

(事務局) それでは私の方から最後に一言だけお話させていただきたいと思えます。市あるいは 5 町村といたしましても、ビジョンを作っていくということが目的ということではございません。皆様方からいただいた提言をもとにビジョンを策定し、どういった事業を進めていくかということが一番大きなテーマとなってくるわけでございます。すでに昨年の 9 月に中心市の宣言をして、この 4 月に協定を結んでおりますから、行政レベルでは連携の視点でいろんな事業にこれまでも取り組んできておりますけれども、これからは産・学・官、連携といった視点でいろんな事業に取り組んでいきたいと思っております。行政はこれから新年度に向けた予算編成の時期になりますので、新しい事業、これまでやってきた事業を含めて、連携の視点で取り組み、できるだけ今いただいた提言書の内容を反映できるような形で市内ならびに 5 町村とも協議をして、とり進めていきたいと思っております。

ご意見がないようですので、これで終了させていただきますけれども、7 月の第 1 回懇談会から WG をのべ 8 回開催させていただき、そのあと起草 WG も 3 回ほど開催させていただきました。短い間ではございましたが、数多くの会議の中でご審議をいただきましたことを、まずお礼申し上げます。これをもちまして第 2 回の懇談会を終了させていただきます。皆さんどうもありがとうございました。

7. 閉会